

第10回日本ヘルスコミュニケーション学会学術集会
『国際化と医療コミュニケーション』
協賛趣意書

謹啓 時下益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

医療の分野では、コミュニケーションが重要な課題として認識されるようになってきました。医学研究の成果は、それが一般市民に分かりやすく正確に伝えられることによって、はじめて健康行動や医療行動の変容につながります。このために分かりやすく正確に伝えるということが非常に重要です。更に近年では効果的な情報の『伝え方』としてのコミュニケーションだけでなく、関係者がお互いに伝え、受け取る、双方向のコミュニケーションへの関心も高まりつつあります。医療機関では患者との良好なコミュニケーションが患者満足度の向上、治療成績の向上、紛争の予防・解決に結びつくという認識が広まっています。また職員のやる気・能力を高め、組織内の紛争を防ぐためにもコミュニケーションが果たす役割は重要です。

近年、わが国ではヘルスコミュニケーションの重要性の認識が高まるにつれて、ヘルスコミュニケーションの教育、研究に携わる研究者が増加しています。そこで、「ヘルスコミュニケーション」というキーワードで集まる場をつくるべく、日本ヘルスコミュニケーション研究会が発足しました。平成23年4月1日からは、日本ヘルスコミュニケーション学会に名称変更しています。

学会員はヘルスコミュニケーション学を独自の学問分野として確立すべく努力しています。教育面においても、医師や看護師をはじめ、多様な医療者が医療コミュニケーションの知識や技術を生かして活躍することにより、わが国の医師の資質向上と医療の進展に寄与することが期待されます。年に1回、医療コミュニケーション領域の研究者の交流及び、研究と教育実践の確認の場として、日本ヘルスコミュニケーション学会学術集会を開催してきました。第10回学術集会では、我が国の急速な国際化の進展に伴う医療コミュニケーションの課題に焦点を当てる予定です。

当学会の活動が広く認識されるとともに、第10回日本ヘルスコミュニケーション学会学術集会の開催趣旨をご理解いただき、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

謹白

平成30年3月1日

第10回日本ヘルスコミュニケーション学会学術集会

大会長 萩原明人